

年頭所感



戸田中央医科グループ 会長
中村 隆俊



新年明けましておめでとうございます。皆さまには、お健やかに新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

ここ数年、老眼が進行し、世の中の情報源といえば、もっぱらラジオとなりました。仕事とリハビリ以外は、一日中、ラジオを聴いています。お陰様で眼疲労もなく快適に過ごしています。そんななか、昨年はノーベル賞受賞者の発表で、2日連続、日本人化学者受賞の吉報が流れました。ちょうど体調を崩して自信を失いかけていた私に大きな力と勇気を与えてくれたニュースでした。

昨秋、ノーベル物理学賞を受賞された東京大学宇宙線研究所の梶田隆章所長は埼玉県出身で、埼玉県も大いに盛り上がりを見せました。梶田さんと対談する恩師89歳の小柴昌俊東京大学特別栄誉教授の「まだ夢の途中だね」という発言はとても印象深く、いくつになっても夢を追い続ける逞しさにロマンを感じます。

また、ノーベル生理学医学賞者を受賞された北里大学の村岡大教授は、報道インタビューで「少しでも人のため、世のためにやってきたことが認めてもらえた」と答えていました。人間存在の根源を照らし出すような使命を堅持している姿に強く感銘を受けます。

ゲーテと同時代のドイツの著名な医師であるフーランド(C.W.Hufeland)は、名著「Enchiridion Medicum」(医学必携)の巻末に記した「De Verplichtingen des Geneesheers」(医師の義務)のなかで、「医師たるものは他人のために生を受けているのであって、己のために生まれているのではなく、己の健康や生命を顧みることなく、ただ、他人のために尽くすことだけである」と言っています。この考えは、江戸末期に「解体新書」で知られる杉田玄白の孫の杉田成卿らが原書の当該部分

を翻訳した「医戒」という書籍を出版したことにより、明治以降の日本の医学界にも大きな影響を与えました。私自身、医学生時代に「医師の使命」として叩き込まれた教えですが、このような人間存在の根源を照らし出すような戒めは、医師のみならず、化学者、あらゆる職業にあてはまるものです。長年、医療に携わってきましたが、果たして世のため患者さまのためにと実践してきたことが本当に皆さまのお役にたっているのだろうか？ 優しく丁寧に心のこもった医療行為を行って来られたのだろうか？ ものを知れば知るほど、考えれば考えるほど、人間は謙虚でなければならないと感じています。

そんな私も昨年10月にお陰様で米寿を迎えることができ、11月の祝賀会では多くの御来賓、OB職員、現職員からお祝いを賜りましたこと、誠に感無量であり、改めて御礼を申し上げます。88歳までよく生きてきてこられたものだと正直、思います。

どんなにささやかなことであっても、何かしら生きる喜びを見出し得てこそ人は生きることができるともいえない。生きる喜びとして、これからはまずリハビリに精進し、歩くこと、次に地域社会に恩返しすることを目指し、老骨に鞭打ってがんばってまいります。

さて、今年は病院にとって厳しい内容が予想される診療報酬改定があります。より難しい経営を迫られることになるかと思いますが、どんなマイナス改定であっても、「医療を守る」イコール「地域を守らなくてはならない」のです。

10年後には3人にひとりが65歳以上となる超高齢社会の到来により、独居高齢者が増加し、また認知症も700万人時代を迎えます。病院も質の高い介護施設、診療所との連携が必須です。これまでのような病気やケガを「治す」医療から「治し支える」医療への転換が求められます。地域包括ケアシステム構想との絡みはもとより、各病院・施設の立ち位置を今一度、しっかり把握したうえで、地域のなかで求められる医療・介護を突き詰めて探求し、自院・自施設の将来像と今後の展開を熟慮してください。

加えて、TMG職員の皆さんには、「医療(介護)は人間存在そのものと向かい合う行為」であり「やさしく丁寧な心のこもった医療(介護)ができていないか」を決して忘れることなく、日々、自らに問いかけていただきたいと思っております。皆さんが新年にあたり抱かれた各々の抱負が達成できるよう、努力を間断なく続けていかれることを期待しています。

結びにあたり、皆さまのご健康とご多幸を心からお祈りいたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

副会長 新年のご挨拶

戸田中央医科グループ

副会長 中村 毅



明けましておめでとうございます。健やかに新年をお迎えることとお慶び申し上げます。

昨年は、会長の米寿をお祝いいただく機会に恵まれ、家族といたしましても感謝の1年でありました。

TMGの2015年を振り返りますと、まずは2月に複合型介護福祉施設「carna五反田」がオープンしました。7つの事業体を集合させたこの施設は介護業界で注目を集め、多くの取材・見学をいただきました。4月から使用を開始した「戸田中央看護専門学校」の新校舎(A館)の完成に続き、5月には「北総白井病院」が新築移転し、8月には「よこすか浦賀病院」がTMGに新たに加入、9月には「TMG宗岡中央病院」の新病院の完成と、グループのさらなる基盤強化が進む1年となりました。

さて、今年もサービス付き高齢者住宅「戸塚共立結の杜 下倉田」の開所を皮切りにさまざまな事業展開を予定しております。念願であった「朝霞中央総合病院」の新築工事も本格的に始動し、平成29年内の完成、平成30年1月開院を予定しております。続いて「新座志木中央総合病院」の増改築工事も始まりまます。また、4月には「熱海 海の見える病院」の新規開設、6月には「戸田中央看護専門学校」のⅡ期工事(B館)が終了する予定となっており、先に完成したA館と合わせ、校舎の完全リニューアルが達成される予定です。既に着工している事業も含め、より良い医療環境・療養環境の充実に向けた展開をさらに進めてまいります。

昨年は、第145回直木賞受賞作品である「下町ロケット」がドラマ化されて評判となりました。佃製作所という中小企業が、特許を武器に大企業に挑む物語ですが、物語のなかで『佃品質、佃プライド』という言葉が掲げ、社員が一丸となるシーンがあり、私も感動を覚えました。今年4月の診療報酬改定は厳しい内容が予想されますが、厳しい時こそ『TMG品質、TMGプライド』を掲げ、患者さま、利用者さまを中心としたTMGの医療・介護のクオリティー維持向上のために、職員一丸となって邁進していく所存です。本年も宜しく願い申し上げます。

戸田中央医科グループ

副会長 横川 秀男



昨年はラグビーワールドカップでの日本代表の大活躍に、多くの方が感動されたのではないのでしょうか。彼らは智将エディ・ジョーンズという強力な指導者の下、信念と忍耐を持って猛練習に励んだそうです。自分たちの強み、早いパスワークや低いタックル等を徹底的に伸ばし、自分たちのスタイル『JAPAN WAY』で戦い抜きました。われわれTMGも『One for All, All for One』の精神を軸に、ぶれることなく変化を恐れず、グループの強みである団結力を活かして『TMG WAY』を突き進む時を迎えました。

グループでは、「TMG宗岡中央病院」の開設等、事業の拡大発展が続いていますが、神奈川方面でもここ数年、相次いで新規計画が進んでおります。昨年8月、「よこすか浦賀病院」を開設、11月には戸塚区役所跡地にて、多世代共生施設「ONE FOR ALL横浜」が着工しました。本年は1月に「戸塚共立第1病院」新築移転工事の着工、サービス付き高齢者住宅「戸塚共立結の杜 下倉田」のオープン、そして4月には「熱海 海の見える病院」の開設を予定しています。

神奈川県では、黒岩祐治知事主導の「未病を治す」大プロジェクトが進行中です。昨年は健康運動指導士の活動を中心とした「発病予防、健康増進」への横浜柏堤会の取り組みが注目され、神奈川新聞紙上で黒岩知事らとの対談が実現しました。

職員一同、心をひとつに育ててきたものを、確固たるものにする時期がきたと感じております。奇しくも今年の干支「申」は元々「呻(しん)=うめく」の意味で、果実が成熟して固まって行く状態を表すそうです。

今年はまた大変厳しい医療制度改革が待っています。しかし、どのような状況にあっても世のニーズを掴んだ組織は必ず生き残ります。TMGはトータルヘルスケアグループとして、『TMG WAY』=地域と人に寄り添い、迅速できめ細かくあたたかな医療と介護、そして充実したネットワークを活かし、世の中から求められる組織をめざします。



今年も皆さまからのご指導ご鞭撻をお願いいたしますとともに、皆さまのご多幸をお祈り申し上げます。

離日直前のエディ・ジョーンズ氏を激励